

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 18 号



2015年10月18日発行

発行責任者 岡田守弘

芳川玲子

〒259-1292

平塚市北金目 4-1-1

東海大学文学部心理・社会学科

巻頭言

「学校心理士を取り巻く状況について思うこと」

この学校心理士会神奈川支部との付き合いは、1999年の初夏、神奈川県に学校心理士会の準備委員会が発足し、その委員という名の雑用係として関わりを持ちはじめ以来16年の長きにわたる。この間、神奈川支部の組織作りに始まり、毎年の総会や研修会の企画・運営、十周年記念行事、さらには学校心理士会全国大会の大会運営などさまざまな行事に携わらせていただいた。

現役員のうち、この長い時間を共にさせて頂いたのは岡田支部長、田村副支部長、大草事務局長のお三方である。皆相応に同じだけの年を取った。

もうじき二十周年記念行事の準備を始めなくてはならない今年、公認心理師法案が可決され、ようやく心理学関連の国家資格が生まれることになる。

学校心理士の資格を取得された皆様、特に現職教諭の方々にとってはこの国家資格を取得することは困難であることが予想され、自分とは関係ないと思える方も少なくないかもしれない。

国家資格を取得しようとするまいと、この変化に対して我々学校心理士が考えておかねばならないことがある。それは「学校心理士とは何か」である。

本支部の研修会や全国大会でも何度となく取り上げられているテーマであるが、「学校心理士の専門性とは何か」「学校心理士として何ができるのか」を各々がしっかりと持つことが求められるだろう。そして今後の学校組織の構造を変革するやもしれない「チーム学校」の構想の中で、しっかりとした立ち位置を持つことが出来たなら、これから起こるであろう混乱は学校心理士にとって好都合なのではないだろうか。

16年目にして、学校心理士を取り巻く環境は大きく動き始める可能性を見せた。今後は個々の研鑽がとても大きな意味を持つであろう。巻頭言を任せていただいて、日頃考えていたことを連ねてみたが、

そんなうねりと関係なく神奈川支部役員会の仕事は淡々と続く。

さあ、研修会案内の発送準備だ。

(副事務局長 斎藤一政)

平成 27 年度神奈川支部総会 報告

1. 日時 6月7日(日) 14:00~14:30
2. 場所 ウィリング横浜
3. 総会の議事と審議結果
 1. 開会
 2. 支部長挨拶 岡田守弘(支部長)
 3. 議長選出
 4. 議事
 - (1) 第1号議案 平成26年度事業報告並びに決算・監査報告について・・・承認
 - (2) 第2号議案 平成27年度事業計画並びに予算案について・・・・・・・・承認
 - (3) 第3号議案 神奈川支部20周年記念行事について・・・・・・・・承認

(参考)

1. 平成26年度事業報告
 - (1) 総会 第16回総会 平成26年6月15日 かながわ労働プラザ
 - (2) 研修会
 - 第36回研修会 平成26年6月15日 かながわ労働プラザ
(2014年度春季南関東ブロック研修会)
テーマ「いじめを含む学校危機対応における学校心理士の役割」
講師：瀧野 揚三先生(大阪教育大学)
 - 第37回研修会 平成26年10月19日 ウィリング横浜
テーマ「小規模養護施設に入所してくる児童生徒の心のケア
～福祉の最前線から見えてくる子どもの心、学校、親、そして行政の姿勢～」
講師：新倉 アキ子先生(帝京大学教職大学院)
 - 第38回研修会 平成27年2月22日 相模女子大マーガレットホール
(2014年度冬季南関東ブロック研修会)
テーマ「教職員のメンタルヘルス」
講師：眞金 薫子先生(東京都教職員互助会三楽病院)
2. 平成27年度事業計画 [研修会]
 - 第39回研修会 平成27年6月7日 ウィリング横浜
(2015年度春季南関東ブロック研修会)
テーマ「学校心理士のアイデンティティをどこに求めるか
～私にキャリアと心理士法案とのかかわりで～」
講師：大野 精一先生(日本教育大学院大学)
 - 第40回研修会 平成27年10月18日 ウィリング横浜
テーマ「神奈川県インクルーシブ教育」
講師：田口 雅巳先生(神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課)
 - 第41回研修会 平成28年2月14日 ユニコムプラザ相模原

テーマ「未定」

講師：山口 豊一先生（跡見学園）

第39回研修会報告

日時 2015年6月7日（日）

場所 ウィリング上大岡

「学校心理士のアイデンティティをどこに求めるか」

—私のキャリアと心理師法案とのかかわりで—

講師：日本大学院大学 大野精一 先生

◆研修の概要

高校教師としての自身のキャリアや、「学校心理士」資格の制度設計の歴史から、心理士法案の現在の動向までを踏まえて、学校心理士のアイデンティティ、学校心理士の在り方について話された。

◆講演

○学校心理士とは、そして学校心理士のアイデンティティとは

学校心理士は学校の現場の先生方の実務経験を非常に重視した制度設計になっている。学校心理学の淵源は、アメリカのスクール・サイコロジーに加えて、特殊教育（特別支援教育）、学校教育相談の3つにある。このような包括的な在り方はアメリカには見られないものである。すなわち、学校心理士のアイデンティティは、スクールワイドに、汎用的で包括的な支援を行っていくところにある。

学業指導、認知カウンセリング、キャリアガイダンス、キャリアエデュケーションといったものを十分に含み込ませた上でパーソナルかつソーシャルな援助ができる、そういうことを考えて学校心理士の制度設計をした。

○心理士法案の動向

現在の法案には2点課題を感じている。一つは「四年制大学卒業だけで良いのか」ということ、もう一つは「医師の力を強く入れ込んでいいのか」ということである。これらが解決されれば、「病院臨床がどう、福祉臨床がどう」ということではなく、包括的に心理援助を行っていくための資格、という制度設計になっていると思う。これは、コーディネーション、コンサルテーションを行うという学校心理士に近いものだと考えている。

○自身のキャリア～高校の教師としての35年間

35年間ずっと高校教育の現場でやってきた。そして、「ああでもない、こうでもない」と考えていたことを本に書いたり論文に書いたりしてきた。

教員としてのキャリアの後半は生徒指導主事を担当することが多かった。立場上強制力（処分）を伴う指導を行うこともあった。それまでは教育相談で論文を書いたり学会発表をしたりしてきたので「あいつは考え方を変えたのか」と言われることもあったが、自分の中ではそれは矛盾していない。

教育相談はそんなに生やさしいものではない。「言うべきことは言う」「やらせるべきことはやらせる」ことは必要。生徒指導を英語で言うと counselling and guidance となる。この二つをどのように組み合わせたらよいか、どうバランスを取ればよいかをいつも考えながらやってきた。

本の紹介

「キーワードブック 特別支援教育の授業作り
—授業創造の基礎知識—」



渡邊健治 湯浅恭正 清水貞夫 編著 クリエイツかもかわ 2200円＋税

授業内容や授業展開の課題、問題点を整理し、特別なニーズのある子どもたちの発達を保障する「授業づくり」が総合的に理解できます。章だても「授業づくりのポイント」「読み書き・算数の授業づくり」「生活・文化・からだ」「キャリア教育」など幅広く書かれています。写真も豊富で、章の最初のポイントのページや最後もコラムも平易であり且つ考えさせられます。「共に育ち共に学ぶ」インクルーシブな学びの場を実践していく、これからの教育現場に役立つ一冊です。



2015年度 日本学校心理士会大会報告

- 期日：2015年8月8日（土）・9日（日）
 - 会場：道民活動センター かでる2・7（北海道札幌市中央区北2条西7丁目）
 - 大会テーマ：—学校心理士のアイデンティティを問う—
- ☆☆☆日本学校心理士会 2015年全国大会報告☆☆☆

平成27年8月8日、9日の両日、全国大会としては初めて北海道、札幌の地で開催されました。会場は市内の「かでる2・7」、目の前は北大植物園、裏には旧北海道庁のレンガ作りの名所もあります。日差しは暑いのですが、木陰や夕方からの風は涼しく、さすが北海道と感心させられました。

さて、今回のテーマは「学校心理士のアイデンティティを問う」とされていますが、これは心理師の国資格化を踏まえて、改めて学校心理士の役割や寄って立つところの確認をしておく必要を踏まえて設定されたものと思われます。石隈会長の「学校心理士のアイデンティティとは」と言う基調講演に始まり、文科省児童生徒課課長補佐の斎藤大輔様による基本情報満載の講演「学校心理士に期待すること」では、主たるテーマを「チーム学校を進めるために」として学校を取り巻く様々な課題が述べられました。そして、斎藤課長補佐様は、その課題解決のためにスクールカウンセラーをはじめとして、学校はどのようにチームを構成し、どのような人材がどう補完しあって子どものために学校を変えていくかについて熱く語られました。

二日目のセッションは「一次的、二次的、三次的援助の具体化とその方策」をテーマに様々な分野の講座が開かれました。

北海道支部の皆様のおもてなしに支えられ、気持ちの良い大会を終えることが出来ました。次の全国大会は平成28年12月3、4日、東京で開催の予定と聞いております。

（報告：田村順一）

[編集後記]学校の中で心理的援助を必要としているのは子どもたちのみならず、保護者や教職員など幅広くいます。学校心理士は、人と繋がりながら自分自身の心理的なメンテナンスを行い研鑽を積みそれぞれの持ち場で期待される役割を果たしていかなくてはなりません。「しんどい」部分に少しでもこのニューズレターが役立つことを願います。 ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp（編集部）